



## 平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年2月14日

上場取引所 東

上場会社名 ウィルソン・ラーニング ワールドワイド株式会社  
 コード番号 9610 URL <http://www.wlw.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長CEO (氏名) 森 捷三  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員グローバルコーポレート本部本部長 (氏名) 渡壁 淳司 TEL 03-6381-0234  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	2,276	△9.5	△93	—	△73	—	△175	—
29年3月期第3四半期	2,514	2.8	138	—	108	—	32	—

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 △155百万円 (—%) 29年3月期第3四半期 62百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	△33.98	—
29年3月期第3四半期	6.28	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	3,235	2,404	74.3	466.61
29年3月期	3,501	2,560	73.1	496.73

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 2,404百万円 29年3月期 2,560百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では期末日における配当予想額は未定であります。

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,600	4.1	200	△35.0	170	△41.0	100	△32.2	19.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	5,154,580株	29年3月期	5,154,580株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	541株	29年3月期	509株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	5,154,039株	29年3月期3Q	5,154,071株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。経済情勢の変化等の不確定要素により実際の業績の記述の予測数値と大幅に異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(追加情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

①業績の概要は、次のとおりであります。

欧米の大手企業の多くからグローバル契約をいただいているのが「営業力強化」の研修です。業種や国を超えた普遍的な課題です。最近では、クラスルームでの研修の前後にウェブを活用した学習を組み合わせる継続学習型のプログラムが好評です。

北米の既存顧客との大型ライセンス契約の終了を補う大型プロジェクトの受注の進捗が遅く、前年同期に比べ売上高・営業利益共に前年を下回る大きな要因となりました。また、今年度はインドや中国、オーストラリアなどで、新たな営業担当者を採用したものの、採用コストに見合う売上高の伸びにはつながっておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間における連結業績は、売上高22億7千6百万円（前年同期比9.5%減）、営業損失9千3百万円（前年同期は1億3千8百万円の営業利益）、経常損失7千3百万円（前年同期は1億8百万円の経常利益）となっております。また親会社株主に帰属する四半期純損失は1億7千5百万円（前年同期は3千2百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

②セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (イ) 国内

国内の企業業績は好調で、人材育成投資の必要性の認識も高まっており、国内の売上高は前年並みで推移しています。ビジネスイノベーション領域での新たなリーダーシップ研修がお客様の好評をいただき、この分野での受注・売上、見込案件も増えてきております。「人生100年時代」など、日本が抱える社会的課題に対応できるような形での提案活動を続け、また新たな顧客開拓にも継続的に力をいれており新規顧客の受注も増加しております。

しかし、第2四半期までの大型プロジェクトに関連したコスト増の影響が続いていることと、体制強化のため前年度より各部門で採用を進めたことによる人件費の増加が、国内事業の損益にも影響しております。また、海外子会社の売上高の減少に伴うロイヤリティ収入の減少もあり、当第3四半期も引き続き営業赤字となりました。

この結果、売上高9億4千2百万円（前年同期比2.7%減）、営業損失1億6千1百万円（前年同期は7千6百万円の営業損失）となりました。

#### (ロ) 北米

既存顧客との大型ライセンス契約の終了に伴い、新規の大口顧客の獲得に務めておりますが、前年同期の売上高を下回っています。また、利益率の高いライセンス契約案件が終了したため、営業利益も前年同期を下回りました。投資活動として、研修を補完する新しいウェブシステムの開発に着手していることも影響しております。

この結果、売上高13億9百万円（前年同期比12.7%減）、営業利益6百万円（前年同期比93.8%減）となりました。

#### (ハ) 欧州

販売チャネルを代理店から社員による直販中心に切り替えたことと、ダイレクト・マーケティングの継続実施が功を奏し、グローバル企業の受注が増加し、堅調な推移を見せていますが、前年に獲得した大型案件に匹敵するような案件の獲得ができず、減収減益となりました。

この結果、売上高3億4千7百万円（前年同期比6.4%減）、営業利益5千5百万円（前年同期比27.0%減）となりました。

#### (ニ) 中国

営業体制の刷新を行いました。中国経済の減速の影響もあり、売上高は前年同期を大きく下回りました。採用コストなどが計上され、営業赤字となっております。

この結果、売上高9千1百万円（前年同期比27.9%減）、営業損失4百万円（前年同期は3百万円の営業利益）となりました。

#### (ホ) アジア・パシフィック

オーストラリアでは、APAC地域全域で研修を実施するグローバル契約の受注に成功し、売上高は前年同期を上回りました。一方インドでは、第2四半期までの売上高の未達をリカバリーできておらず前年を下回りました。

オーストラリアやインドでは、営業体制の強化を図るため営業担当者の採用を積極的に行いましたが、販売実績にはまだ結びつかず、販売管理費の増加の結果、営業赤字を計上しました。

この結果、売上高1億2千1百万円（前年同期比14.2%増）、営業損失6百万円（前年同期は1千6百万円の営業利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、25億4千1百万円(前連結会計年度末は27億6千4百万円)となり、2億2千2百万円減少しました。これは、主に現金及び預金の増加8千7百万円がりましたが、受取手形及び売掛金の減少3億2千6百万円があったことによるものです。

②固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、6億9千4百万円(前連結会計年度末は7億3千7百万円)となり、4千3百万円減少しました。これは、主にリース資産の増加1千9百万円がりましたが、繰延税金資産の減少6千7百万円があったことによるものです。

③流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、6億4千3百万円(前連結会計年度末は7億3千1百万円)となり、8千8百万円減少しました。これは、主に賞与引当金の減少4千3百万円、前受金の減少3千1百万円があったことによるものです。

④固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、1億8千7百万円(前連結会計年度末は2億9百万円)となり、2千1百万円減少しました。これは、主に長期借入金の減少2千9百万円があったことによるものです。

⑤純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、24億4百万円(前連結会計年度末は25億6千万円)となり、1億5千5百万円減少しました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金の減少1億7千5百万円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、平成29年5月15日に公表した連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,744,814	1,832,673
受取手形及び売掛金	887,484	560,532
有価証券	2,690	647
たな卸資産	35,124	59,753
繰延税金資産	25,523	9,136
その他	74,765	84,120
貸倒引当金	△6,058	△4,931
流動資産合計	2,764,343	2,541,933
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	29,611	26,812
工具、器具及び備品(純額)	17,746	21,130
土地	34,205	34,205
リース資産(純額)	—	19,470
有形固定資産合計	81,564	101,619
無形固定資産		
ソフトウェア	2,968	5,970
教材用コンテンツ	17,263	22,842
その他	567	3,352
無形固定資産合計	20,799	32,164
投資その他の資産		
投資有価証券	172,968	165,207
敷金及び保証金	96,285	95,425
長期貸付金	20,582	4,316
退職給付に係る資産	74,989	77,835
繰延税金資産	269,932	202,548
その他	25,856	22,245
貸倒引当金	△25,724	△7,328
投資その他の資産合計	634,889	560,250
固定資産合計	737,253	694,034
資産合計	3,501,597	3,235,968

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	140,328	125,800
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	38,760	38,760
未払金	11,809	7,471
未払消費税等	25,328	16,640
リース債務	1,678	5,683
未払法人税等	6,409	9,621
賞与引当金	62,241	19,108
役員賞与引当金	18,989	—
資産除去債務	2,122	2,135
繰延税金負債	94	—
未払費用	160,796	171,012
前受金	152,862	121,730
その他	10,425	25,494
流動負債合計	731,844	643,459
固定負債		
長期借入金	109,590	80,520
リース債務	1,153	16,644
繰延税金負債	33,371	31,763
退職給付に係る負債	6,511	1,427
資産除去債務	47,136	48,179
その他	11,793	9,038
固定負債合計	209,556	187,573
負債合計	941,401	831,032
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	722,698	722,698
資本剰余金	557,452	557,452
利益剰余金	1,010,088	834,962
自己株式	△205	△216
株主資本合計	2,290,034	2,114,898
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,416	3,527
為替換算調整勘定	263,745	286,510
その他の包括利益累計額合計	270,161	290,037
純資産合計	2,560,196	2,404,935
負債純資産合計	3,501,597	3,235,968

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	2,514,543	2,276,760
売上原価	718,487	706,393
売上総利益	1,796,056	1,570,367
販売費及び一般管理費	1,657,774	1,663,418
営業利益又は営業損失(△)	138,281	△93,051
営業外収益		
受取利息	2,200	8,365
受取配当金	1,000	1,000
貸倒引当金戻入額	9,525	18,396
賃貸料収入	994	12,528
投資事業組合運用益	567	8,911
雑収入	684	3,521
営業外収益合計	14,973	52,723
営業外費用		
支払利息	2,127	2,636
為替差損	36,275	12,434
持分法による投資損失	305	708
賃貸収入原価	994	12,528
雑損失	4,702	5,065
営業外費用合計	44,405	33,372
経常利益又は経常損失(△)	108,849	△73,700
特別利益		
受取和解金	3,571	—
その他	186	—
特別利益合計	3,758	—
特別損失		
減損損失	37,021	—
特別損失合計	37,021	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	75,585	△73,700
法人税、住民税及び事業税	13,864	15,651
法人税等調整額	29,358	85,774
法人税等合計	43,222	101,425
四半期純利益又は四半期純損失(△)	32,363	△175,125
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	32,363	△175,125



(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	32,363	△175,125
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,316	△2,888
為替換算調整勘定	32,063	22,764
その他の包括利益合計	29,746	19,875
四半期包括利益	62,109	△155,250
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	62,109	△155,250

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(米国連邦法人税の税率引き下げに伴う繰延税金資産の取崩しについて)

平成29年12月22日、米国において税制改革法が成立し、米国の現行の連邦法人税率35%が平成30年より21%に引き下げられることに伴い、米国子会社の繰延税金資産について再評価した結果、当第3四半期連結累計期間において繰延税金資産99,579千円を取り崩し、同額を法人税等調整額に計上いたしました。